



2025年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年4月11日

上場会社名 モビルス株式会社 上場取引所 東
コード番号 4370 URL <http://mobilus.co.jp/>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 石井 智宏
問合せ先責任者（役職名） 取締役CFO（氏名） 加藤 建嗣（TEL） 03(6417)9523
半期報告書提出予定日 2025年4月11日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有

（百万円未満切捨て）

1. 2025年8月期第2四半期（中間期）の業績（2024年9月1日～2025年2月28日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		EBITDA※		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年8月期中間期	851	11.8	92	—	13	—	8	—	5	—
2024年8月期中間期	761	△5.4	△70	—	△198	—	△202	—	△201	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年8月期中間期	1.00	0.99
2024年8月期中間期	△34.49	—

（参考）持分法投資損益 2025年8月期中間期 ー百万円 2024年8月期中間期 ー百万円

※EBITDA（営業利益＋ソフトウェア償却費＋減価償却費＋株式報酬費用）

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2025年8月期中間期	1,873	1,269	67.8
2024年8月期	1,963	1,241	63.2

（参考）自己資本 2025年8月期中間期 1,269百万円 2024年8月期 1,240百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年8月期	—	0.00			
2025年8月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年8月期の業績予想（2024年9月1日～2025年8月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	1,969	28.4	0	—	△6	—	△5	—	△0.91

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は、2025年8月期第3四半期決算より連結決算に移行いたします。連結決算移行に伴う連結業績予想の公表につきましては、「1. 経営成績等の概況（3）今後の見通し」及び本日開示しました「連結決算への移行に伴う連結業績予想の公表に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年8月期中間期	5,988,074株	2024年8月期	5,973,674株
② 期末自己株式数	2025年8月期中間期	55,536株	2024年8月期	104,786株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年8月期中間期	5,901,636株	2024年8月期中間期	5,973,674株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況（3）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 今後の見通し	4
2. 中間財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間貸借対照表	5
(2) 中間損益計算書	7
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(重要な後発事象)	9
(セグメント情報等の注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間における我が国経済は、緩やかな景気の持ち直しの兆しが見られる一方で、ウクライナや中東地域の情勢の影響等から資源価格の高騰や、金融資本市場の変動等により先行きが不透明な状況が継続しております。

当社の経営環境としては、国内企業の人手不足感の高まりやコスト削減への圧力から、コンタクトセンターの効率化及び自動化へのニーズは引き続き高く、またChatGPTなどの生成AIの技術的進化に伴い今まで効率化が困難であった領域における自動化への期待が高まることに伴い、コールセンターへの投資マインドが一段と醸成されつつあります。

当中間会計期間の売上高については、当社の主要事業であるSaaSサービスは、大規模のオペレータを有するコンタクトセンターでの利用が開始するなど案件が大型化し、またMooA(生成AI関連製品)の導入も進むことにより、前年同期比で増加となりました。2025年2月末時点で、当社SaaSプロダクトの契約数は317件(前年同期比102%)と微増に留まりましたが、新規案件の大型化と既存顧客の追加購入（アップセル/クロスセル）により、契約当たりの平均単価は275千円(前年同期比44千円増)となりました。プロフェッショナルサービスは、有償カスタマーサクセス案件の獲得が進み、カスタマイズ案件ではSaaS製品導入に伴う案件が増加した一方、従来のイノベーションラボサービスに区分される開発案件の規模が縮小したことにより、前年同期に対して低い水準となりました。

以上の結果、当中間会計期間における売上高は851百万円(前年同期比11.8%増)、営業利益は13百万円(前年同期は営業損失198百万円)、経常利益は8百万円(前年同期は経常損失202百万円)、中間純利益は5百万円(前年同期は中間純損失201百万円)となりました。

なお、当社はSaaSソリューション事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしていませんが、サービス別の売上高は、以下のとおりであります。

サービスの名称(注1)	第13期中間会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	第14期中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
	販売高(千円)	販売高(千円)
SaaSサービス	549,766	649,894
プロフェッショナルサービス	212,036	201,840
合計	761,803	851,735

(注1) 前事業年度まで「SaaSサービス」「プロフェッショナルサービス」「イノベーションラボサービス」の3つのカテゴリーにて開示を行っていましたが、プロフェッショナルサービス中のカスタマイズ事業のビジネスモデル転換の進捗により、「イノベーションラボサービス」に区分される新規案件が限られてきたことから、当事業年度より「イノベーションラボサービス」を「プロフェッショナルサービス」に統合して開示することといたしました。

また、当社が重視している経営指標の推移は、以下のとおりであります。

ARR(注2)の推移

	2024年8月期				2025年8月期	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
ARR(千円)	1,037,533	1,082,726	1,130,272	1,143,808	1,241,546	1,311,388
うち直販(千円)	450,821	486,770	518,909	527,403	617,497	632,296
うち代理店(千円)	354,069	374,785	360,832	358,325	365,876	413,156
うちOEM(千円)	232,643	221,171	250,530	258,079	258,171	265,935

(注2) ARR: Annual Recurring Revenueの略語であり、毎年経常的に得られる当社製品の月額利用料と従量課金の合計額。

四半期末月のサブスクリプション売上高(毎月经常的に得られる当社製品の月額利用料と従量課金の合計額)を12倍することにより算出。なお、前事業年度までにおいてはサブスクリプション売上高に従量課金は含めておりませんでした。生成AI関連製品を含め従量課金を伴うSaaS製品が増加し、製品利用に伴う売上高に占める従量課金の重要度が高まったため、当事業年度よりサブスクリプション売上高に従量課金を加えて開示することといたしました。記載の過年度の数字につきましても、同様の基準にて再集計し、開示しております。

サブスクリプション型のリカーリングレベニューに関わる契約数(注3)及び契約当たりの平均単価(注4)の推移

	2024年8月期				2025年8月期	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
契約数	310	311	307	308	312	317
契約当たり平均単価(千円)	216	231	239	240	263	275

(注3) OEMを除く。

(注4) 契約当たり平均単価:OEMを除く。四半期末月の月次サブスクリプション売上高を契約数で除することにより算出。なお、(注2)に記載のとおり、当事業年度よりサブスクリプション売上高に従量課金を加えて開示しております。記載の過年度の数字につきましても、同様の基準にて再集計し、開示しております。

直近12ヵ月平均解約率(注5)の推移

	2024年8月期				2025年8月期	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
解約率(%)	0.76	0.89	0.98	1.03	1.06	0.83

(注5) 従量課金・OEMを除く。「当月の解約による減少したライセンス売上高÷前月末のライセンス売上高」の12ヵ月平均。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間会計期間末における流動資産は1,348百万円となり、前事業年度末に比べ254百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金の減少340百万円があったことによるものであります。固定資産は525百万円となり、前事業年度末に比べ165百万円増加いたしました。これは主にソフトウエアの増加147百万円によるものであります。

この結果、資産合計は1,873百万円となり、前事業年度末に比べ89百万円減少いたしました。

(負債)

当中間会計期間末における流動負債は304百万円となり、前事業年度末に比べ105百万円減少いたしました。これは主に契約負債の減少77百万円があったことによるものであります。固定負債は300百万円となり、前事業年度末に比べ12百万円減少いたしました。これは長期借入金の流動負債への振替5百万円、繰延税金負債の減少3百万円があったことによるものであります。

この結果、負債合計は604百万円となり、前事業年度末に比べ117百万円減少いたしました。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産合計は1,269百万円となり、前事業年度末に比べ27百万円増加いたしました。これは主に自己株式の処分により28百万円増加したことによるものであります。

この結果、資本金439百万円、資本剰余金1,395百万円、利益剰余金△542百万円となりました。

(3) 今後の見通し

当社は、「すべてのビジネスに、一歩先行くCXを。」をミッションに掲げ、クライアントの顧客のつまずきや課題へ先回りしたCX(顧客体験)のブランディング設計を行い、企業価値と経営収益向上へ貢献することを目指し、新しいテクノロジーを取り込んだオペレーション支援生成AIサービス「MooA®(ムーア)」や、顧客コミュニケーションのノンボイス化とデジタル化を推進する有人チャットやボイスボットなどのSaaSソリューション「モビシリーズ」の開発を行ってまいりました。

生成AIの登場によりコンタクトセンターにおける対応業務の自動化は飛躍的に進捗するものと見込まれます。コンタクトセンターを含めた企業の顧客接点は大きな転換点を迎えており、最適な顧客体験の実現に向けて先端テクノロジーを最大限活用していくことが今後の企業の競争力を高める上で極めて重要な要素になると考えます。

このような事業環境の中で、当社中期経営計画において「MooA®」や「モビシリーズ」といったコアソリューションを中心に、「CX」×「テクノロジー」の分野で上流から下流まですべての領域をカバーする事業ポートフォリオの構築を進めています。具体的には、全社戦略としてのCXブランディングを支援する「CX戦略コンサルティング」、AIエージェントによる柔軟な自動応対を実現する「デジタルオペレーション」を新たなサービスとして提供する予定です。

本計画の中心となる生成AIソリューションの開発に向けた先行投資を2023年8月期及び2024年8月期の2期にわたって実施し、競争力のある製品・機能群を提供するに至りました。これらの新たな製品は、商用利用を開始する顧客も増えつつある中で、今後の収益拡大のドライバーとなることが見込まれます。2025年8月期につきましては、引き続き製品・機能群の強化や事業ポートフォリオの充実に向けた投資を行うものの、投資回収に向かう転換期と位置付けています。

以上をふまえ、2025年8月期の連結業績予想は、売上高1,969百万円、営業利益0百万円、経常損失6百万円、親会社株主に帰属する当期純損失5百万円となる見通しであります。

なお、当社は、2025年3月28日付「合併会社設立に関する合併契約締結のお知らせ」において公表いたしましたとおり、2025年4月21日付でのvottia株式会社の設立に伴い、2025年8月期第3四半期より連結決算に移行いたします。2025年8月期の連結業績に関しては、本日開示いたしました「連結決算への移行に伴う連結業績予想の公表に関するお知らせ」もご参照ください。当該連結業績予想は、同資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年8月31日)	当中間会計期間 (2025年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,352,981	1,012,161
売掛金	182,527	272,628
仕掛品	7,102	7,891
貯蔵品	74	79
前払費用	44,149	50,140
その他	17,518	7,872
貸倒引当金	△1,880	△2,746
流動資産合計	1,602,472	1,348,027
固定資産		
有形固定資産	7,526	8,401
無形固定資産		
ソフトウェア	308,157	455,342
その他	169	14,895
無形固定資産合計	308,326	470,238
投資その他の資産	44,806	47,063
固定資産合計	360,659	525,702
繰延資産	168	—
資産合計	1,963,300	1,873,729

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年8月31日)	当中間会計期間 (2025年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	49,746	50,712
1年内返済予定の長期借入金	66,672	38,884
未払金	110,768	83,725
未払法人税等	7,075	15,796
未払消費税等	8,404	19,744
契約負債	103,316	25,382
預り金	10,794	10,344
賞与引当金	47,070	57,529
その他	5,555	1,935
流動負債合計	409,405	304,055
固定負債		
長期借入金	305,548	300,000
繰延税金負債	3,174	—
長期契約負債	3,344	—
固定負債合計	312,066	300,000
負債合計	721,471	604,055
純資産の部		
株主資本		
資本金	438,827	439,878
資本剰余金	1,402,911	1,395,568
利益剰余金	△548,737	△542,820
自己株式	△52,096	△23,137
株主資本合計	1,240,904	1,269,489
新株予約権	924	185
純資産合計	1,241,828	1,269,674
負債純資産合計	1,963,300	1,873,729

(2) 中間損益計算書

	(単位：千円)	
	前中間会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
売上高	761,803	851,735
売上原価	387,106	279,289
売上総利益	374,697	572,445
販売費及び一般管理費	572,844	558,784
営業利益又は営業損失(△)	△198,147	13,661
営業外収益		
受取利息	6	549
雑収入	154	0
営業外収益合計	160	549
営業外費用		
支払利息	1,428	1,662
譲渡制限付株式関連費用	2,073	3,238
為替差損	470	331
株式交付費償却	992	168
その他	—	50
営業外費用合計	4,965	5,451
経常利益又は経常損失(△)	△202,952	8,759
特別利益		
新株予約権戻入益	—	924
特別利益合計	—	924
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△202,952	9,683
法人税、住民税及び事業税	1,145	6,940
法人税等調整額	△3,031	△3,174
法人税等合計	△1,886	3,766
中間純利益又は中間純損失(△)	△201,065	5,917

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△202,952	9,683
減価償却費	117,057	65,679
株式報酬費用	10,541	13,647
譲渡制限付株式関連費用	2,073	3,238
株式交付費償却	992	168
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△9,130	865
受取利息及び受取配当金	△6	△549
支払利息	1,428	1,662
売上債権の増減額(△は増加)	△80,300	△89,905
棚卸資産の増減額(△は増加)	△3,786	△793
仕入債務の増減額(△は減少)	11,098	966
未払金の増減額(△は減少)	28,802	△25,179
契約負債の増減額(△は減少)	△56,962	△81,278
長期契約負債の増減額(△は減少)	△1,056	—
未払消費税等の増減額(△は減少)	16,117	11,339
賞与引当金の増減額(△は減少)	6,356	10,458
その他	1,305	△143
小計	△158,421	△80,141
利息及び配当金の受取額	6	549
利息の支払額	△1,428	△1,662
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	23,179	△50
営業活動によるキャッシュ・フロー	△136,664	△81,305
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,784	△3,770
無形固定資産の取得による支出	△138,969	△224,695
敷金及び保証金の返還による収入	376	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△142,377	△228,465
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300,000	—
長期借入金の返済による支出	—	△33,336
株式の発行による収入	—	2,102
新株予約権の発行による収入	176	185
財務活動によるキャッシュ・フロー	300,176	△31,048
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	21,134	△340,819
現金及び現金同等物の期首残高	1,265,337	1,352,981
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,286,471	1,012,161

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当中間会計期間に、新株予約権の行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,051千円増加しております。

また、2024年10月11日開催の取締役会決議に基づき、2024年11月8日に譲渡制限付株式報酬として自己株式44,250株の処分を行いました。

さらに、2024年11月28日開催の取締役会決議に基づき、2024年12月20日に譲渡制限付株式報酬として自己株式16,870株の処分を行いました。

この結果、当中間会計期間末において、資本金が439,878千円、資本剰余金が1,395,568千円、自己株式が△23,137千円となっております。

(重要な後発事象)

(合併会社の設立)

当社は、2025年3月28日開催の臨時取締役会において、以下のとおり、トランスコスモス株式会社(本社：東京都豊島区、代表取締役共同社長：牟田正明、神谷健志、以下「トランスコスモス」)とコンタクトセンター向けのAI エージェントプラットフォームを提供する「vottia 株式会社(以下「新会社」、読み方：ボッティア)」を設立することで合意し、合併会社を設立することを前提とした合併契約締結について決議いたしました。

なお、当該合併会社は当社の連結子会社に該当いたします。

1. 設立の理由

当社はこれまで、クライアントの顧客のつまづきや課題へ先回りした CX(顧客体験)のブランディング設計を行い、企業価値と経営収益向上へ貢献することを目指し、新しいテクノロジーを取り込んだオペレーション支援生成 AI サービス「MooA®(ムーア)」や、顧客コミュニケーションのノンボイス化とデジタル化を推進する有人チャットやボイスボットなどの SaaS ソリューション「モビシリーズ」の開発を行ってまいりました。

「消費者と企業のコミュニケーション実態調査(※1)」によれば、消費者のチャット利用意向は 55%と上昇していますが、実際の利用経験は 28%にとどまり、企業の環境整備が追いついていないことがわかります。さらに、従来型のチャットボットには「利用されない」「解決されない」といった問題があります。より効果的なサポートを実現するため、チャットボットと人の対応を組み合わせた「ハイブリッドチャット」のソリューションの提供も行われていますが、AI 技術の急速な進化に伴って、消費者はさらなる自己解決の向上を求めています。

消費者のさらなる自己解決の向上に向けて、当社クライアントであるコンタクトセンターにおいても、LLM(大規模言語モデル)を中心とした最新の技術を用いた賢いバーチャルアシスタントである「AI エージェント」の実用化が見込まれます。従来のボットはあらかじめ決められた質問に対して決まった答えを返すだけでしたが、AI エージェントはより柔軟に人間のようにやり取りし、オペレーターが行っていたシステム操作を一連のタスクとして自動処理することが可能になります。

AI エージェントの開発及び提供に当たっては、当社がこれまで培ったプロダクト開発に係る知見・ノウハウに加えて、より深い業務プロセスに対する知見や、VOC(Voice of Customer)に対する理解が求められます。今回の合併相手となるトランスコスモスではVOC分析から顧客接点の課題を解決するプラットフォームtrans-DX for Support(※2)を独自に開発し、そこから得られた消費者インサイトや業務専門性を豊富に蓄積しています。新会社においてこの両社の知見を融合させることで、使いやすさや問題解決力の高い AI エージェントプラットフォームを提供していけるものと考えており、当該ソリューションをもって消費者のユーザビリティ向上とお客様企業のコスト最適化に取り組みます。

※1 消費者のコミュニケーション実態調査 2024-2025(トランスコスモス)

※2 「trans-DX for Support」顧客接点の CX 課題を飛躍的に解決するデジタルプラットフォームを独自開発 VOC を活用しユーザビリティ向上と企業コストの削減を同時に実現(トランスコスモス)

2. 合併会社の概要

(1)	名称	vottia株式会社
(2)	所在地	東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング15階
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役社長 石井 智宏
(4)	事業内容	AIプラットフォームの開発、運用
(5)	資本金	9,500万円（別途、資本準備金として9,500万円）
(6)	設立年月日	2025年4月21日（予定）
(7)	決算期	8月31日
(8)	純資産	190百万円
(9)	総資産	190百万円
(10)	大株主及び持株比率	当社：50%、トランスコスモス：50%

3. 今後の見通し

当社は、vottia株式会社の設立に伴い、2025年8月期第3四半期より連結決算に移行いたします。2025年8月期の連結業績予想は、売上高1,969百万円、営業利益0百万円、経常損失6百万円、親会社株主に帰属する当期純損失5百万円となる見通しであります。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当社は、SaaSソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。